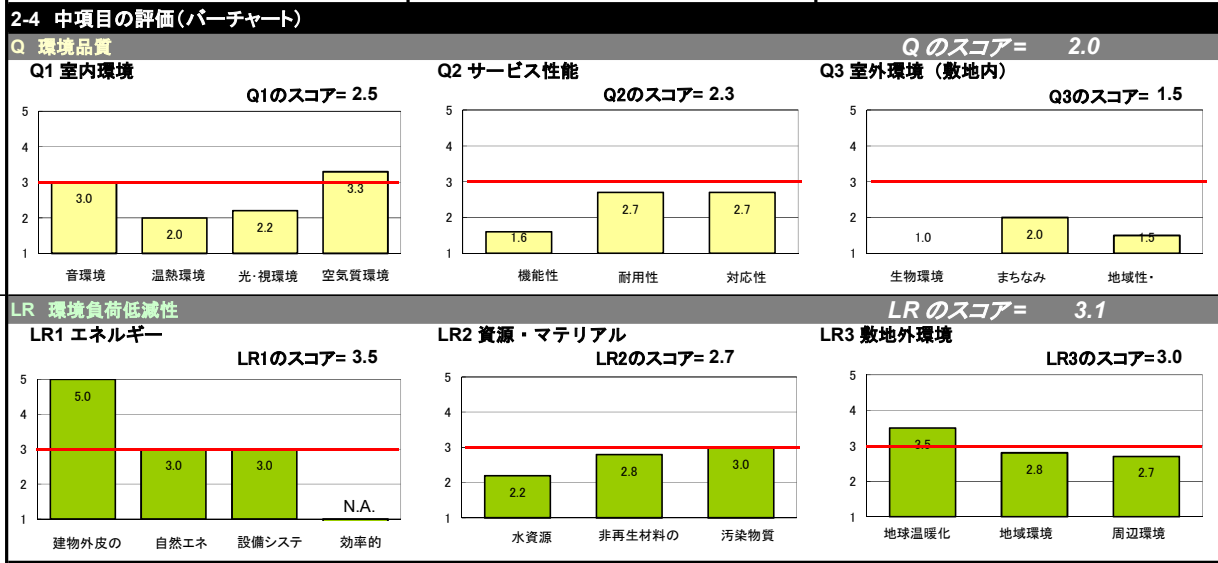
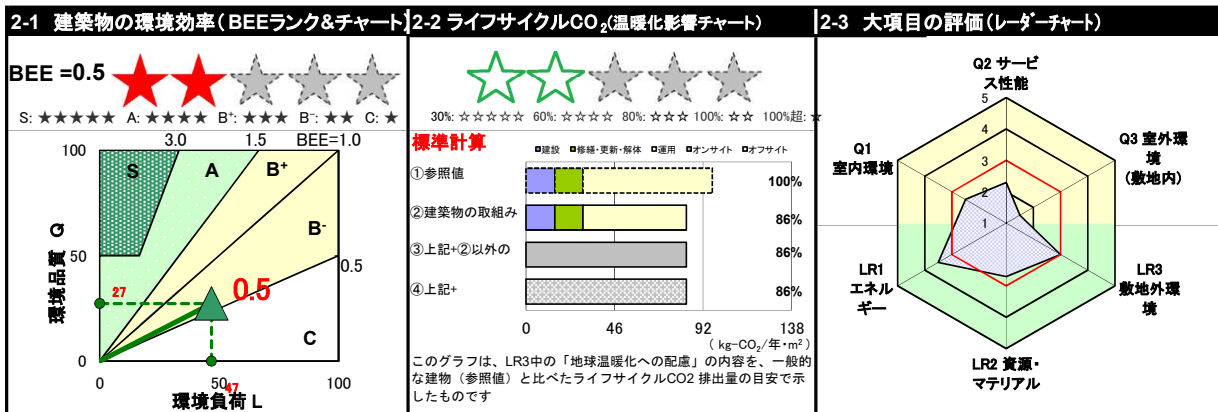


# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社諸長 埼玉工場精米工場新築工事	階数	地上2F
建設地	埼玉県大里郡寄居町大字桜沢 字中小前田後1756番4、 字水久保1877番3	構造	S造
用途地域	用途地域: 指定なし 防火地域: 指定なし	平均居住人員	50 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,574 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2023年1月24日
敷地面積	26,986 m <sup>2</sup>	作成者	守屋八潮建設(株) 一級建築士事務所
建築面積	11,269 m <sup>2</sup>	確認日	2023年1月24日
延床面積	13,676 m <sup>2</sup>	確認者	守屋八潮建設(株) 一級建築士事務所



### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
建物外皮の熱負荷抑制、設備システムの高効率化をすることで、建築物を運用する際に発生するエネルギー消費を低減させる取組みを行っている。	
<b>Q1 室内環境</b> 告示対象外・F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的(70%以上)に採用することで、空気質環境に配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> 事務所棟の2FL~軒高(水下)の高さ3.700mとすることで、対応性・更新性に配慮している。
<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 建物高さにおいて、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させることで、まちなみ・景観に配慮している。	
<b>LR1 エネルギー</b> 断熱材、複層ガラスを採用することで、建物外皮の熱負荷抑制に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 特になし
	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が参照値に対して86%とすることで、地球温暖化に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 (仮称)株式会社 精米工場新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.32</b>		-		<b>2.5</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.15		-		<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	<b>3.0</b>	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	<b>3.0</b>	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.0</b>	0.35		-		<b>2.0</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38	<b>3.0</b>	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	<b>3.0</b>	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-		
2.3 空調方式				<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.2</b>	0.25		-		<b>2.2</b>
3.1 昼光利用				<b>2.4</b>	0.30		-		
1 昼光率				<b>2.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-		
2 方位別開口					-	<b>3.0</b>	-		
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-		
3.2 グレア対策				<b>1.0</b>	0.30		-		
1 昼光制御				<b>1.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.3</b>	0.25		-		<b>3.3</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50		-		
1 化学汚染物質		告示対象外、F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的(70%以上)に採用		<b>4.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-		
4.2 換気				<b>2.3</b>	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.33	<b>3.0</b>	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	<b>3.0</b>	-		
3 取り入れ外気への配慮				<b>1.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-		
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視					-		-		
2 喫煙の制御				3.0	1.00		-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>		-		<b>2.3</b>
<b>1 機能性</b>				<b>1.6</b>	0.40		-		<b>1.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>1.6</b>	0.40		-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33	<b>3.0</b>	-		
2 高度情報通信設備対応				<b>1.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-		
3 バリアフリー計画				<b>1.0</b>	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				<b>1.3</b>	0.30		-		
1 広さ感・景観				<b>1.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-		
2 リフレッシュスペース				<b>2.0</b>	0.33		-		
3 内装計画				<b>1.0</b>	0.33		-		
1.3 維持管理				<b>2.0</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				<b>2.0</b>	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				<b>2.0</b>	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.7</b>	0.30		-		<b>2.7</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>2.8</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				<b>2.0</b>	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20		-		
2.4 信頼性				<b>2.0</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備				<b>1.0</b>	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				<b>1.0</b>	0.20		-		
3 電気設備				<b>3.0</b>	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				<b>3.0</b>	0.20		-		
5 通信・情報設備				<b>2.0</b>	0.20		-		

<b>3 対応性・更新性</b>			2.7	0.30	-	-	2.7
<b>3.1 空間のゆとり</b>			2.8	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	事務所棟の2FL～軒高(水下)の高さ3.700m	4.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			3.0	0.30	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			2.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		1.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.38	-	-	1.5
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			1.0	0.30	-	-	1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			2.0	0.40	-	-	2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			1.5	0.30	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	3.1
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	3.5
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		断熱材、複層ガラスを採用 BPI = 0.72	5.0	0.25	-	-	5.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>			3.0	0.13	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.80	3.0	0.63	-	-	3.0
<b>4 効率的運用</b>			-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	2.7
<b>1 水資源保護</b>			2.2	0.20	-	-	2.2
<b>1.1 節水</b>			1.0	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			2.8	0.60	-	-	2.8
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			3.0	0.20	-	-	3.0
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			3.0	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	3.0
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率が参照値に対して86%	3.5	0.33	-	-	3.5
<b>2 地域環境への配慮</b>			2.8	0.33	-	-	2.8
<b>2.1 大気汚染防止</b>			3.0	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			3.0	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			2.7	0.33	-	-	2.7
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			1.6	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県

# 重点項目シート






■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)株式会社諸長 埼玉工場	BEE	0.5	BEEランク	★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.5	+	2.0	=	5.5	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
					

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.5
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.5
<配慮した内容を記述> ライフサイクルCO2排出率が参照値に対して86%とすることで、地球温暖化に配慮している。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 緑地を確保することにより、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇を抑制し、敷地内温熱環境の向上に配慮している。 建築物の高さを抑えて、夏期の卓越風向に対する建築物の見付面積を小さくするよう努め、風下となる地域への風通しに配慮し、敷地外への熱的な影響を低減している。			

: 入力欄